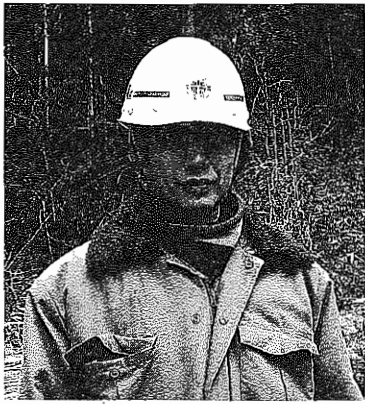


いわての林業人 29

今月の普及班便りでは、東磐井地方森林組合で高性能林業機械オペレーターとして林産作業等を行っている金野 潤（こんの じゅん）さんをご紹介します。

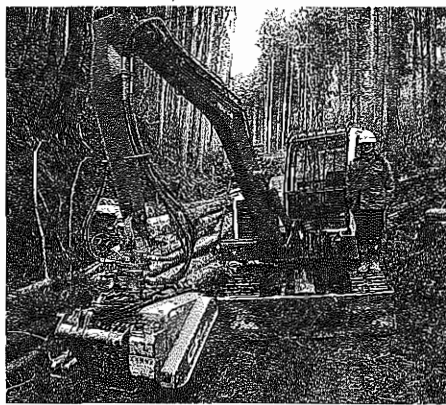
金野さんは、近くに住む森林組合勤務の方から「若い人がいないから」と誘われ、平成11年8月に林業作業班員として採用されました。

新植、下刈、除間伐など森林整備作業全般を経験した後、平成14年にグリーンマイスター研修を受講して各種資格を取得し、現在、高性能林業機械オペレーターとして主に素材生産事業を行って5年目になるといふことです。



金野 潤さん

森林組合就業以前は、工場で働いていたので、森林作業は、夏は暑く、冬は寒いので慣れるまで大変だったようですが、「自ら手入れをした森林の生長を実感できた」ことから林業の魅力を感じて、生涯の仕事とすることになったとのこと。今は、「森林組合も高性能林業機械の導入で作業環境は格段に良くなったし、安全性も高まった。緑の雇用などで、何人か後輩も入ってきたので、職場の雰囲気も若々しく変わってきた。」と感じているそうです。



作業現場で

このたび金野さんは、平成23年11月24日に開催された第6回一関地方農林業振興大会で、「明日を拓く担い手部門賞（青年林業者）」を受賞しました。

受賞理由は、「① 地域の森林を手入れするための低コストかつ安全

な保育・生産するための高度な技術を身につけている。② 各種資格を取得し、低コスト林業に熱心に取り組みと共に作業現場の安全管理や効率的な作業を常に行っている。③ 高性能林業機械を利用した間伐や林内路網整備を行うため、各種研修等の参加による知識・技術を修得し、森林作業の生産性・安全性の向上に努めている。」とのことでした。



振興大会の様子

また、今後期待されることとしては、「① 地域林業を支える技術者・指導者としての活躍。② 地域林業経営の継続のための中核けん引者としての役割。③ 高齢化する林業従事者の中にあって、若い担い手として、さらに若い作業員に対する指導」が上げられました。受賞おめでとうございました。

今後、身につけたいことを伺うと、

今は林産作業現場で採材も任されていることから、「木材市況や製材の知識を勉強して売れ筋を把握できるようになり、素材生産に役立てたい。」とのことでした。

取材の最後に、千葉政吾東磐井地方森林組合長に金野さんへのアドバースをお聞きしたところ、「比較的、全な林業機械での作業と言っても、林業の作業現場は工場などと違って常に変化しているのだから、集中するべき時は特に集中して行ってもらいたい。」と、厳しくも暖かいお言葉をいただきました。



千葉組合長

平成24年度は、いよいよ森林経営計画による生産間伐が本格化する年です。若手林業機械オペレーターとしての一層のご活躍を期待しております。

林業技術センター普及班

019 (698) 1337